

クラシナ タケン

倉科 岳志

文化学部・准教授

博士(法学)／慶應義塾大学

主な研究業績

- 『ファンズム前夜の市民意識と言論空間』慶應義塾大学出版会、2008年(編著)
- 『クローチェ1866-1952 全体を視る知とファンズム批判』藤原書店、2010年(単著)
- 「クローチェと第一次世界大戦—ジェンティーレとの関係を中心に」『日伊文化研究』日伊協会、XLIX、92-100頁、2006年
- Un traduttore giapponese dell' Estetica con un' appendice di lettere inedite tra Benedetto Croce e Yoshinobu Baba (1926-1927), *Annali istituto italiano per gli studi storici*, Mulino, XX, pp.129-148, 2003-2004
- L' arte della traduzione Una dissertazione di Baba Mutsuo sulla traduzione in giapponese delle opere occidentali (29 settembre - 3 ottobre 1921), *Scrinia*, Sabezia Edizioni, Anno III-N.1, pp.5-17, marzo 2006
- 「記憶の場・ラテルツァ出版社—上級文化の集会的記憶と読者共同体」『日伊文化研究』日伊協会、XLVI、43-52頁、2008年
- 「反逆する若者たち」『社会思想史研究』No.32、94-107頁、2008年
- 「精神哲学の体系化—1902年から1909年におけるクローチェ哲学の展開」『イタリア学会誌』58号、109-129頁、2008年10月
- 「観念論としての自由主義—1910年から25年におけるクローチェ思想の展開」『年報政治学—政府間ガヴァナンスの変容』258-275頁、2008年12月
- 「政治的神話の形成と展開—コッパディーニ、ヴォルペ、クローチェにおけるクリスピ像」『イタリア学会誌』59号、163-182頁、2009年
- 「クローチェにおける『文学』概念の形成(1935-41年)」『法学研究』84巻第2号、171-191頁、2011年2月
- 「ジョアッキノ・ヴォルペの近代イタリア史論」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』第3号、67-86頁、2014年
- 「晩年のクローチェ～ファンズム病氣論と弁証法の起源～」『日伊文化研究』日伊協会、LII、49-61頁、2014年

研究テーマ

クローチェの生涯と思想:深化する精神哲学と批判的後継者たち、
ならびにナポリの民俗学的研究について

概要

19世紀から20世紀にかけて活躍したナポリの哲学者ベネデット・クローチェの思想を解明する。哲学的思考様式の変化に従って仮説的に前期(1866年から1901年)、中期(1902年から1932年)、後期(1933年から1952年)と分けたうえで、かれの社会立場と思想の相互関係を考慮しながら、出版された作品、日記、書簡などをテーマ横断的に時系列で読み込む。テキスト解釈においては文献学的方法論を採用し、形態学的な類似性から影響関係を推論する手法は補助的に用いる。

(1)クローチェとナポリ文化に関する研究:前期から後期に至るまで一貫してなされたナポリの神話や伝説に関するクローチェの考証学研究を、かれの哲学ならびに歴史叙述との関連において検討する。他方、クローチェによる研究を最新のナポリ・南部イタリア研究と対照することで、ナポリ都市文化論もしくは地中海文化論へと展開する。

(2)クローチェの思想史的位置についての研究:近現代イタリアにおける国民形成と南部という観点から、A・オリアーニ、G・ジェンティーレ、G・ヴォルペ、G・デ・ルッジェーロ、P・ゴベッティ、E・デ・マルティーノ、A・グラムシらとの思想史的位置関係を検討する。また、日本におけるクローチェ受容史においては羽仁五郎との思想的関係を解明する。

共同研究へのニーズ

近代ヨーロッパにおける市民社会思想史

ナショナリズム研究

近現代イタリアの政治・社会・文化史

ナポリ・南イタリア・地中海文化史

近代日本における西欧思想受容史